

小学校「特別の教科道徳」におけるLD等発達障害児の特性・困難と 配慮・支援

—「教育支援資料」と小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」との関連—

青木 利樹（東京学芸大学教職大学院）・田中 亮（塩尻市立塩尻東小学校）・
奥住 秀之（東京学芸大学）・大井 雄平

要旨：「特別の教科道徳」への改訂にあたり、発達障害児の困難や配慮が注目された。本稿では、文部科学省が2013年に報告した「教育支援資料」に記載された学習障害等発達障害児の特性や困難を小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」と関連させ、発達障害児の特性や困難と「特別の教科道徳」の内容項目との関係について検討した。注意欠陥多動性障害児と自閉症スペクトラム障害児では、内容や目標に工夫が必要であることが推察された。一方、学習障害児は、目標や内容について課題となることが少ないが、障害の特性上、指導の方法に工夫が必要となることが推察された。発達障害児の道徳性を育むとともに、彼らの特性を受容し、互いに認め合えるような学級集団を育てていくことも、道徳科の重要な視点であると考えられた。

キーワード：小学校の通常の学級 特別の教科道徳 発達障害 教育支援資料

1. はじめに

特別支援教育の開始から10年以上が経過した。小学校等の通常の学級における、学習障害（以下、LD）、注意欠陥多動性障害（以下、AD/HD）、自閉症スペクトラム障害（以下、ASD）等の知的な遅れのない発達障害の子どもの指導・支援の充実がますます注目されている（奥住，2019；田中・奥住，2019）。こうした現状を受けて、平成29年告示の小学校学習指導要領総則には、「障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法を計画的、組織的に行うこと」と記述され、さらには、各教科において、「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」に、「障害のある児童の配慮についての事項」という記述がなされ、児童の困難とその配慮が示された。

2018年学習指導要領改訂では、「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）として示された。教科化の要点として、内容をより体系的にすること、検定教科書の導入、評価の充実などが挙げられている。道徳科では、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことを目標に、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要とされている（文部科学省，2018）。

道徳科においても発達障害児への支援は重要視されており、道徳科の解説に、発達障害等のある児童に対する指導や評価を行う際には、「困難さの状態」を把握したうえで、必要な配慮が求められると記載されている。さらに、道徳の教科化を前にした「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」（文部科学省，2016）では、発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について検討されている。その際に、作成された『特別の教科

道徳』の指導方法・評価等について（報告）」では、「学習上の困難さ」「集中することや継続的な行動をコントロールすることの困難さ」「他人との社会的関係の形成の困難さ」の3つの困難について、「困難さの状況」「考えられる障害」「道徳指導上の困難」「指導上の必要な配慮」の4つの観点から整理している。ここから、日常の学習活動や日常生活での困難が、道徳科を指導する上でどのように関わるか、そしてそのような支援が適切であるかを読み取ることができる。

ところで、学習指導要領改訂前の2013年に文部科学省は、「教育支援資料」を作成した。ここでは、科学的・医学的知見や新たな就学手続の趣旨や内容をはじめ、市町村教育委員会の就学手続におけるモデルプロセス、障害種ごとの障害の把握や具体的な配慮の観点等についても記述されている（文部科学省, 2013）。

本論では、この「教育支援資料」（2013）のLD、AD/HD、ASDに記述されている障害の特性や困難と、平成29年告示学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」の内容項目との関連について検討する。

2. 方法

「教育支援資料」（2013）のLD、AD/HD、ASDにある障害の特性や困難を、平成29年告示学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」の内容項目と関連させ、整理した。道徳科の内容項目は、「A主として自分自身に関すること」「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の4つの視点でまとめられ、Aが「善悪の判断、自律、自由と責任」「正直、誠実」など6項目、Bが「親切、思いやり」「感謝」など5項目、Cが「規則の尊重」「公正、公平、社会主義」など7項目、そしてDが「生命の尊さ」「自然愛護」など4項目から構成されている。LD等の特性や困難、配慮や支援については、原則として「教育支援資料」の引用とし、一部、内容に支障がない程度に筆者が文言を改めた。

3. 結果と考察

（1）LD児について

表1は、LD児について、道徳科の内容項目と「教育支援資料」の特性や困難を関連させて示したものである。

LD児の特性や困難で道徳科の内容項目に関するものは、「A主として自分自身に関すること」に1つあり、それは「個性の伸長」であった。これは、自分の特徴を知り、長所は伸ばし、短所は改めるための内容項目である。「教育支援資料」では、LD児は自己評価が低下することが記述されており、その支援として成功体験を増やすことや友達から認められることなどが挙げられている。B、C、Dに該当すると考えられるものはなかった。

先行研究を見ると、土田（2019）は、LD児の自己肯定感に関して、スモールステップの「できた」「やれた」という繰り返しが、本人の自信をより確かなものにし、成功体験を増やすことはLD児の自己肯定感を高めるのに有効であると報告した。さらに同論文で土田は、自己肯定感を高めていく指導の中で、児童の自己理解も高まったことを指摘しており、ここから自己肯定感と「個性の伸長」の関係性が推察される。

自己肯定感に関する1項目以外にLD児に直接関係する道徳科に関わる特性や困難は見

小学校「特別の教科道徳」における LD 等発達障害児の特性・困難と配慮・支援
 —「教育支援資料」と小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」との関連—

られないと判断された。このことから、LD 児は道徳科の内容や目標については困難が比較的少ないことが推察される。一方、LD 児は、読みや書き等に困難があるため、内容を理解し、目標を達成するためには指導上の工夫が必要だろう。青木ら（印刷中）は、道徳科を含む全ての教科の学習で「既習の言葉や分かる言葉に置き換える」という支援を行っている教員が多かったことを報告しており、ここからもその関連が推察される。

表 1 LD 児における内容項目と特性や困難との関連

道徳科の内容項目	特性や困難	支援や配慮
A 主として自分自身に関すること 善悪の判断,自律,自由と責任 正直,誠実 節度,節制 個性の伸長 希望と勇気,努力と強い意志 真理の探究	自己評価の低下	学習障害の理解や、それに伴う自己認知や自己有能感の向上。成功体験を増やす。友達から認められたりする場面を設ける。
B 主として人との関わりに関すること 親切,思いやり 感謝 礼儀 友情,信頼 相互理解,寛容		
C 主として集団や社会との関わりに関すること 規則の尊重 公正,公平,社会主義 勤労,公共の精神 家族愛,家庭生活の充実 よりよい学校生活,集団生活の充実 伝統と文化の尊重,国や郷土を愛する態度 国際理解,国際親善		
D 主として生命や自然,崇高なものとの関わりに関すること 生命の尊さ 自然愛護 感動,畏敬の念 よりよく生きる喜び		

(2) AD/HD 児について

表 2 は、AD/HD 児について、道徳科の内容項目と「教育支援資料」の特性や困難を関連させて示したものである。

AD/HD 児の特性や困難で、道徳科の内容項目に関するものは「A 主として自分自身に関すること」に 2 つあり、「個性の伸長」と「希望と勇気、強い意志」であった。「個性の伸長」は LD 児でも見られた。「希望と勇気、強い意志」は、自分に適切な目標をもち、それに向かって努力をし、自己を向上させるための内容項目である。「教育支援資料」には「個性の伸長」に関わるものとして自己評価の低下が見られており、その支援として、良い面を探し褒めることや、良い面を認められるような学級づくりが挙げられている。また、「希望と勇気、努力と強い意志」に関するものとして、課題や活動を最後までやり遂げられな

いとあるが、その支援として、課題の内容や活動の量を調整することなどが挙げられている。

「B 主として人との関わりに関すること」については「親切、思いやり」と「相互理解、寛容」の 2 つが該当した。「親切・思いやり」は、より良い人間関係を築く上で必要となる相手に対する思いやりの気持ちや親切にすることに関する内容項目であり、「相互理解、寛容」は、自分の考えを伝え相互の理解を図り、自分と異なる考えをもつ相手に対しても寛容であるための内容項目である。AD/HD 児の特性や困難として挙げられた「思ったことをそのまま口に出す」ことは両者に関わるものであり、その支援は、気持ちを伝えたり、感情の抑制をしたりする方法を教え、練習することである。

「C 主として集団や社会との関わりに関すること」では「規則の尊重」という 1 つの項目が該当した。これは、法やきまりがあることの意義について考え、自他の権利を尊重し、義務を果たすことに関係する。これに関わる特性や困難として、「教育支援資料」では、順番が待てないことや他の人がしていることをさえぎることなどが挙げられ、その支援として、決まりごとの内容や意義を理解するためのロールプレイなどが示されている。

「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」とみなしうるものはないと判断された。

AD/HD 児の自己評価の低下の支援として、「教育支援資料」は良い面を積極的に探し、褒めることを挙げている。先行研究では、曾山・堅田（2012）は発達障害児への褒める指導が成功経験を増やし、自己肯定感の低下を防ぐと報告している。また、良い面を認め合える学級の雰囲気づくりについても、曾山らは、友達に認められているという良好な学級集団が、発言を増やし、学習活動への積極的な参加を促したと報告している。発達障害児が意欲的に学習活動に参加するために必要な視点だろう。

「希望と勇気、努力と強い意志」と関わりがある「課題や活動を最後までやり遂げられない」という特性や困難と「親切、思いやり」「相互理解、寛容」に関わりがある「思ったことをそのまま口に出す」という特性や困難の支援としては、行動や感情を実際の場面でコントロールすることが挙げられた。障害による困難を改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことを目標としている自立活動（文部科学省，2018）に即した支援内容と言えるだろう。道徳科ではよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としているため、AD/HD 児にとって自己の行動や感情に目を向ける重要な時間になることが推察される。

「順番待てない、他の人がしていることをさえぎる」という特性や困難について、「決まりごとの内容と意義を理解する」という支援は、法やきまりがあることの意義について考える「規則の尊重」の内容項目と一致すると言え、重要な視点であろう。

一方、「教育支援資料」では、AD/HD 児が特性や困難にあげた行動では、適切だと理解していないのか、それとも、理解していながらも行動や感情をコントロールできないのか、そういった要因を明らかにすることが重要であると指摘している。道徳科の評価として「道徳性に係る成長の様子を継続的に把握する」ことが挙げられているが、行動のみから判断するのではなく、個人内の道徳性に係る成長を的確に把握する教員の評価の力量も重要であることが推察される。

小学校「特別の教科道徳」における LD 等発達障害児の特性・困難と配慮・支援
 —「教育支援資料」と小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」との関連—

表 2 AD/HD 児における内容項目と特性や困難の関連

道徳科の内容項目	特性や困難	配慮や支援
A 主として自分自身に関すること		
善悪の判断,自律,自由と責任 正直,誠実 節度,節制		
個性の伸長	自己評価の低下	行動の良い面を積極的に探して褒める。友達から認められる機会の増加に努める。良い面を認め合えるような受容的な学級の雰囲気づくり。
希望と勇気,努力と強い意志	指示に従えず、また、課題や活動を最後までやり遂げられない	要因を明らかにした上で、指示の内容を分かりやすくする工夫を行い、分からない時には助けを求めることを指導する。課題の内容や活動の量の工夫も行うように努め、最後までやり遂げることを指導する。
真理の探究		
B 主として人との関わりに関すること		
親切,思いやり 感謝 礼儀 友情,信頼 相互理解,寛容	思ったことをそのまま口に出す	自分の気持ちを適切に伝えたり、その感情を抑制したりするための方法を教え、練習しておく。
	思ったことをそのまま口に出す	自分の気持ちを適切に伝えたり、その感情を抑制したりするための方法を教え、練習しておく。
C 主として集団や社会との関わりに関すること		
規則の尊重	順番をまてない,他の人がしていることをさえぎる	決まりごとの内容と意義を理解させ、その徹底を図る指導を行う。例えば、ロールプレイを取り入れ、相手の気持ちを考えることや、何かやりたいときに手を挙げたり、カードを指示させたりするなどの工夫を行う。
公正,公平,社会主義 勤労,公共の精神 家族愛,家庭生活の充実 よりよい学校生活,集団生活の充実 伝統と文化の尊重,国や郷土を愛する態度 国際理解,国際親善		
D 主として生命や自然,崇高なものとの関わりに関すること		
生命の尊さ 自然愛護 感動,畏敬の念 よりよく生きる喜び		

(3) ASD 児について

表 3 は、ASD 児について、道徳科の内容項目と「教育支援資料」の特性や困難を関連させて示したものである。

ASD 児の特性や困難で、道徳科の内容項目に関するものは「A 主として自分自身に関すること」に 1 つあり、それは「個性の伸長」であった。これについては LD 児と AD/HD 児でも見られた。ASD 児の特性や困難として、情緒の不安があったり、自尊感情や自己肯定感が低下したりしていることが挙げられた。その支援は、教師のきめ細やかな観察による原因や背景の特定と適切な指導などである。

次に「B 主として人との関わりに関すること」では「親切、思いやり」「友情、信頼」「相互理解、寛容」の 3 つの項目が該当した。「親切、思いやり」「相互理解、寛容」は AD/HD

児でも見られた。「友情、信頼」とは、友達と互いに理解し、信頼し、助け合うための内容項目である。「親切、思いやり」に関わるものとして、相手の気持ちや状況を考えないことがあり、「友情、信頼」に関わるものとして、他人の考えや気持ちを理解して、友達関係や信頼関係を形作ることが困難であることが記述され、それらの支援として、友達や教師とともに活動することが挙げられている。「相互理解、寛容」に関わるものは、意思を交換することが困難であるということであり、この点については、ASD 児の特性を活用した視覚を使った支援が挙げられていた。

「C 主として集団や社会との関わりに関すること」は、「規則の尊重」と「よりよい学校生活、集団生活の充実」の 2 つの項目が該当した。「規則の尊重」は AD/HD 児でも見られた。「よりよい学校生活、集団生活の充実」は様々な集団での活動を通して、自分の役割を自覚し、集団生活を充実させるためのものである。「規則の尊重」に関わるものとして、ルールに沿って遊ぶことが、難しいことが挙げられ、その支援は友達や教師とともに活動することであった。また、「よりよい学校生活、集団生活の充実」に関することでは、同年齢の集団に参加することが難しいとされ、特別支援学級では、交流及び共同学習を活用した集団参加を行う支援を紹介していた。

「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」は該当するとみなし得るものはないと判断された。

ASD 児の道徳科に係る特性や困難を内容項目の 4 つの視点から見ると、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の 2 つの視点に 5 つ該当したが、これは、ASD 児における他者とのコミュニケーションの困難と関連していることが推察できる。「親切、思いやり」「友情、信頼」の 2 つで、ASD の特性として、相手の気持ちを考えることや、他者の気持ちを考えることに困難があることが挙げられており、2016 年に行われた「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」の『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）」（文部科学省，2016）の ASD の道徳指導上の困難と一致する。『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）」においても、他者の心情を理解するための支援として、劇や役割演技が挙げられている。先行研究を見ると、加藤ら（2018）は、ロールプレイ（役割演技）を通して、ASD 児が自分の利益を期待せず、他者の利益につながる行為に関する発言をするようになったことを報告しており、他者の気持ちを考えるうえで、ロールプレイが有効であることが示唆されている。また、青木ら（印刷中）の調査では、登場人物の心情や場面を理解するために、役割演技や寸劇が、実際に道徳科で特に行われていることが報告されている。さらに同調査では、「気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示す。」という支援も多くの教員が道徳科で行っていると報告している。

4. まとめ

本論では、文部科学省が作成した「教育支援資料」の LD、AD/HD、ASD に記述されている障害の特性や困難を、平成 29 年告示学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」の内容項目と関連させ、整理した。道徳科が教科化されることにともない、学習内容がより体系化されたと言えるだろう。今回の結果によれば、AD/HD 児と ASD 児では内容項目それ自

小学校「特別の教科道徳」における LD 等発達障害児の特性・困難と配慮・支援
 —「教育支援資料」と小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」との関連—

表 3 ASD 児における内容項目と特性や困難の関連

道徳科の内容項目	特性や困難	配慮や支援
A 主として自分自身に関すること		
善悪の判断,自律,自由と責任 正直,誠実 節度,節制		
個性の伸長	情緒の不安、自尊感情や自己肯定感の低下	教師のきめ細やかな観察等により、背景や原因を理解することが可能であり、かつ適切な教育により、状態が改善されることもある。
希望と勇気,努力と強い意志 真理の探究		
B 主として人との関わりに関すること		
親切,思いやり	相手の気持ちや状況を考えない	友達や教師と一緒に活動する喜びや楽しさを味わい、集団の雰囲気慣れることをねらいとした指導を行っている。例えば、動作の模倣、遊び、劇、係活動などいろいろな活動を通じて、集団での役割を理解し、相手の立場が理解できるようにする。
感謝 礼儀		
友情,信頼	他人の考えや気持ちを理解し友達関係や信頼関係を形作ることが困難	友達や教師と一緒に活動する喜びや楽しさを味わい、集団の雰囲気慣れることをねらいとした指導を行っている。例えば、動作の模倣、遊び、劇、係活動などいろいろな活動を通じて、集団での役割を理解し、相手の立場が理解できるようにする。
相互理解,寛容	意思の交換が困難	視覚を活用した状況を提供する。
C 主として集団や社会との関わりに関すること		
規則の尊重	ルールに沿った遊びが難しい	友達や教師と一緒に活動する喜びや楽しさを味わい、集団の雰囲気慣れることをねらいとした指導を行っている。例えば、動作の模倣、遊び、劇、係活動などいろいろな活動を通じて、集団での役割を理解し、相手の立場が理解できるようにする。
公正,公平,社会主義 勤労,公共の精神 家族愛,家庭生活の充実		
よりよい学校生活,集団生活の充実	同年齢の集団に参加することの困難性	交流及び共同学習として、通常の学級での授業や特別活動に参加して、人間的なふれ合いを深め、集団参加が円滑にできるように配慮している。（固定級）
伝統と文化の尊重,国や郷土を愛する態度 国際理解,国際親善		
D 主として生命や自然,崇高なものとの関わりに関すること		
生命の尊さ 自然愛護 感動,畏敬の念 よりよく生きる喜び		

体に関わる課題が多いと見られ、その側面について工夫が必要となることが推察された。また LD 児では、目標や内容について課題となることは相対的に少ないものの、指導方法の工夫が必要となることが多いことが推察された。

一方、今回の検討は学習指導要領解説と「教育支援資料」の照合にとどまり、今後も実践研究等を通して発達障害児の道徳性に係る実践を検討する必要がある。さらに本稿では、障害ごとにその特性や困難と配慮や支援を見てきたが、複数の困難を併存する児童や困難のある児童が 1 つの学級に複数在籍することも想像できる。困難さの程度も個人によって大きく異なり、それによって必要な支援も柔軟に対応していく必要があるだろう。加えて、

小学校「特別の教科道徳」における LD 等発達障害児の特性・困難と配慮・支援
—「教育支援資料」と小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」との関連—

発達障害児が道徳科に関わる特性や困難を克服してよりよく生きるための道徳性を養うという視点とともに、彼らの特性を受容し、互いに認め合える学級を育てていくことも、道徳科の重要な視点であると考えられる。こうしたことの検討も今後の課題であろう。

文献

- 青木利樹・田中亮・奥住秀之（印刷中）小学校「特別の教科道徳」における発達障害児及びその傾向のある児童への指導上の工夫・配慮．東京学芸大学紀要．総合教育科学系，72．
- 加藤浩平・藤野博（2018）テーブルトーク・ロールプレイングゲーム（TRPG）による自閉スペクトラム症（ASD）児の「利他的発話」の促進．東京学芸大学紀要．総合教育科学系，69(2)，277–284．
- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2012）「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」．
- 文部科学省（2013）教育支援資料．
- 文部科学省（2016）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議「特別の教科道徳」の指導方法・評価等について（報告）．
- 文部科学省（2018）小学校学習指導要領（平成29年告示）．
- 文部科学省（2018）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編．
- 文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部）．
- 奥住秀之（2019）インクルーシブ教育システムと新学習指導要領．教室の窓，58，18–21．
- 曾山和彦・堅田明義（2012）発達障害児の在籍する通常学級における児童の学級適応に関する研究．特殊教育学研究，50(4)，373–382．
- 田中亮・奥住秀之（2019）小学校の通常の学級における特別支援教育の推進—学級経営・授業改善、校内連携、校内体制を中心に—．東京学芸大学紀要 総合教育科学系，70，383–392．
- 土田優子（2019）特別支援教育 学習障害（LD）傾向児童の自己肯定感を高める支援の在り方：通級による指導におけるビジョントレーニングの効果．教育実践研究，29，217–222．